地域で支えあう安全な暮らし

地域の方々がお互いに支え合う街をつくるためには、住民一人ひとりが、地域や福祉への理解と関心を高め、やさしさや思いやりを実際の行動につなげる必要があります。

地域には、小さな子どもたち、子育て中の若い親、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある方など、見守りや、ちょっとした支えを必要としている方がたくさんいます。

こうした人たちを地域全体で支えるため、地域の見守り、声かけ等の充実など支えあう仕組みづくりを進めていきましょう。

地域で守ろう！子どもの笑顔

入学式から１ヶ月が経とうとしています。新入学児童は、これまで家族や周りの大人に守られて暮らしていましたが、少しずつ通学や外遊びなどを通じて、子どもたちだけや自分ひとりで行動することを学んでいきます。

しかし、全国的にも通学途中の事故や事件などが相次いでいることから、子どもたちの安全を守るための取り組みが重要になってきています。

子どもたちの安心で安全な暮らしをまもるため、「家族」「学校」そして「地域」が連携して取り組みましょう。

1. 危険な場所や逃げる場所を子どもと確認しましょう

通学路にある交通事故や連れ去りの発生しやすい場所については、一緒に確認し、近づかなかったり気をつけたりするよう指導しましょう。

危険な場所とは……

- ☆入りやすいが見通しの悪い空き地など
- ☆路地や裏道など人通りが少なく、見通しの悪い道路
- ☆交差点、ガードレールや歩道のない道路

また、何かあったときに逃げ込むことのできる安全な場所である、公共施設や「子供１１０番の家」や店舗、友達の家なども子どもたちと一緒に確認しておきましょう。

2. 防犯グッズの活用と取り付け場所の確認をしましょう

何かあったとき、大声で叫んだりすることは大人でも難しいものです。

防犯用の笛やブザーを活用するのは効果的ですが、すぐに使えるような場所に身に着けていなければ、肝心な時に役に立たなくなってしまいます。

子どもたちと一緒に取り付ける場所も確認してみてください。

3. 日頃から積極的に挨拶をしましょう

家族や教師が一緒にいないとき「子どもを見守る目」となるのが近所の住人やお店など暮らしている地域そのものです。日ごろから積極的に挨拶をするなどして、子どもたちを見守りましょう。

地域の方一人ひとりが地域に関心を持ち、事故や犯罪を寄せつけない地域づくりへの意識を持つことが、子どもたちの安全な暮らしを守る第一歩です。

青パトでみんなを見守っています！

市では、小学校や保育園、幼稚園などの登下校における安全確保のため、青色回転灯付パトロールカー（通称：青パト）での巡回を実施しています。

「安心して通学できるよう、毎日みんなを見守っています」と話す巡回員の向山正俊さん（写真左）と曽雌富夫さん（写真右）。

■お問い合わせ

総務課防災交通担当　（内線 339・399）